



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2016. 1 月号



新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も職員一同、一段と努力して皆様のご愛顧に応えてまいります。どうぞ変わらぬご支援をお願い申し上げます。

1976 年に開館した平塚市博物館は、本年5月1日に満 40 歳の誕生日を迎えます。この間、市民の皆様ひとりひとりに、みずから地域を調べ、楽しむすべを知っていただくべく、活動してまいりました。土地に過去の人々の息吹を感じ、あるいは折々に自然に親しむ。人が暮らしに小さな夢や希望を発見するのは、このような時です。

当館では、そうした喜びを、老若男女貧富を分かたず等しく味わっていただけます。そして、もしもよろしければ、各種サークル活動を通して、いっしょに地域を調べてみませんか？その成果は、展示や、各種イベントを通じて、きっと他の皆様の夢や希望につながるでしょう。日々の喜びは、生命の安全とともに、すべての方の上に灯されるべきです。写真の三猿は、昔の人々が健やかな寿命を願い石仏に刻んだもの。本年が皆様に、そして世界のすべての方にとって健やかな年となりますよう、深く祈念いたします。

平成 28 年元旦 平塚市博物館 館長 澤村泰彦



庚申塔 (幸町 海宝寺)

平塚とその周辺で撮影された昔の写真を公募します

博物館では、変わりゆく地域の自然と文化を未来に伝えていくため、博物館が開館した1976年(昭和51)から現在までに平塚市とその周辺(相模川流域)で撮影された写真を募集します。たくさんのご応募お待ちしております。

＜募集期間＞ 2016年1月5日(火)～4月28日(木)

＜募集する写真の内容＞ ※ご提供いただく写真は、提供者本人が撮影したもの、または使用权をもつものとします。

- ・地域の歩みや暮らし、自然の移り変わりを物語る風景写真(自然景観・町並み・集落・田園・里山・道・川・海・鉄道・公共施設など)
- ・大規模開発等にもとむ景観の変化に関する写真
- ・地域や家庭のくらしが伝わる写真(服装・食卓・住まい・仕事・祭礼・子どもの遊びなど)
- ・地域の歴史的出来事に関する写真(記念行事・台風や地震などの自然災害)

＜写真の使用について＞

- ・ご応募頂いた写真は平成28年度夏期特別展において展示・図録・インターネットなどに掲載させていただくとともに、博物館の資料として保存し、今後博物館の様々な活動に自由に利用させていただきます。

＜写真の提供方法＞

- ・写真またはアルバム、デジタルデータを博物館へ直接お持ちください。ご提供いただいた写真は複製をとってお返しいたします。
 - ・デジタルデータの場合は、下記メールアドレスまで、メール本文に必要事項を記入のうえ、添付ファイルでお送りください。
- ※5MBを超えるとエラーで届かない場合がありますのでご注意ください。枚数が多い場合はデジタルデータをコピーしたCD-ROM等を博物館まで郵送されても構いません。その場合も必要事項を記入したメモを同封ください。

○送付先アドレス: image1976@city.hiratsuka.kanagawa.jp

○必要事項: 氏名、住所、電話番号、メールアドレス、画像が撮影された年月日・場所(可能な限り詳しく)



↑冬の城所の様子(1974年(昭和49年)1月撮影)

郷土史入門講座

平塚の郷土史の基礎知識を学ぶ「郷土史入門講座」。今年は春期特別展「ひらつかの家康伝説 由緒と地域」(開催期間:3月19日～5月8日)のプレイベントの意味もかねて、徳川家康と平塚に焦点をあてた内容です。

特に第2回「誰が金目川を変えたのか?」は、中世以降、近世までに人為的に流路が変えられたと考えられている金目川について、一体誰が変えたのか、諸説を紹介し、皆さんと考えたいと思います。本講座を聴講すれば、春期特別展への興味・理解も進むことでしょう。ふるってご参加ください。

第1回「中原御殿と近世平塚の幕開け」

講師: 早田旅人(平塚市博物館学芸員)

開催日: 1月24日(日)



『中原御宮記』: 近世後期の中原御殿跡を描いた絵巻(市指定文化財)

第2回「誰が金目川を変えたのか?」

講師: 栗山雄揮(平塚市博物館学芸員)

早田旅人(平塚市博物館学芸員)

開催日: 2月21日(日)



大堤: 徳川家康が普請したと伝えられる金目川の堤防(南金目)

※各回とも時間は10時30分～12時。会場は博物館講堂。

参加自由。定員50名(先着順)。

おふだ 千枚の御札

会期：1月5日（火）～31日（日）

初詣に神社やお寺から御札をいただいた方も多いことでしょう。一年間神棚や床の間に祀られた御札は、その多くがセートバレーと呼ばれる小正月の火祭りでお焚き上げされます。このため、だるまなどの縁起物と同様に古い御札は残りにくい運命にあります。

ところが、稀に旧家の主屋を解体した際に、大量の御札が発見されることがあります。この度、展示する秦野市堀山下の大木伸男家から寄贈された御札も、昭和50年の主屋解体時に、天井裏へ藁縄で束ねられた状態で発見されました。祠や御札入れに納められていた御札を合わせると、その数は千枚を超えます。なぜ、大量の御札が貯められていたのかは不明ですが、たくさんの御札を貯めておく火伏せの効力が生じるという例があります。

千枚の御札には、毎年新たに神棚へ祀る「天照皇大神宮」の御札が151枚含まれていました。5代前の当主の名が記された御札もあります。また、伊勢神宮から授与された「御祓大麻」には、明治4年に廃止された御師職の名が記されています（写真）。こうしたことから、千枚の御札は少なくとも江戸末期から貯められていたものと考えられます。



近世の箱札「御祓大麻」

千枚の御札からは、江戸時代から平成に至るまでの御札の歴史を学ぶことができます。一軒の家がどんな社寺から御札をいただいていたのか、社寺信仰の範囲を知ることができます。当時の信仰の有り様を今に伝えるタイムカプセルといえましょう。ぜひご覧ください。



宇宙開発連続講座



今年も、宇宙開発に関する話題をご紹介します連続講座を行います。初回は、今年登場予定の新たなロケットや探査機についてご紹介します。各回とも参加は自由です。ぜひご参加ください。



第1回「2016年の宇宙開発」

2016年の宇宙開発の見どころをお伝えします。

日時：1月31日（日）午後3時30分～午後5時

場所：プラネタリウム室 定員：70名



第2回「宇宙ミッションを作ろう！」

電卓を使って目的の星に向かうために必要な速度を計算し、オリジナルの宇宙探査ミッションを作ります。

日時：2月6日（土）午後3時30分～午後5時

場所：講堂 持ち物：電卓 定員：50名



第3回「世界のロケット打ち上げ鑑賞会」

ロケットの打ち上げを、プラネタリウムで鑑賞します。

日時：2月20日（土）午後3時30分～午後5時

場所：プラネタリウム室 定員：70名



第4回「人工衛星を撮ろう！」

プラネタリウムで人工衛星の見方や撮影方法、画像処理の方法をご紹介します。持ち物：カメラ、三脚

日時：2月28日（日）午後3時30分～午後5時

場所：プラネタリウム室 定員：30名

1	金	休館日			
2	土	休館日			
3	日	休館日			
4	月	休館日			
5	火				
6	水				☆
7	木	展示解説ボランティアの会	講堂	☆	情報コーナー「ポスト特別展 後世に残したい相模川流域の地球遺産」相模川をジオパークに「(2/21)」
	○	ひらつか星空調査隊	講堂	☆	
		聞き書きの会	特別研究室		
8	金	お囃子研究会	講堂		
		古文書講読会	講堂		
9	土			☆	
10	日	平塚の古代を学ぶ会	科学教室		
	◎	スターウォッチング入門講座・冬	講堂	☆	
11	月	祝日開館日			
12	火	休館日			
13	水				プラネタリウム一般投影「2016年の天文現象」(2/1/31)
14	木	古代生活実験室	科学教室		
15	金	◎ 星を見る会	科学教室・屋上		
		古文書講読会	講堂		
16	土	東国史跡踏査団	講堂	☆	
		地域史研究ゼミ	特別研究室	☆	
		平塚の空襲と戦災を記録する会	特別研究室		
17	日	◎ 相模川の生い立ちを探る会	野外：鎌倉 雨天：科学教室	☆	
	◎	ろばたばなし	相模の家	☆	
	◎	星空と音楽のタベ	プラネタリウム室		
18	月	休館日			寄贈品コーナー「千枚の御礼」(1/5/31)
19	火	地質調査会	工作室		
		天体観望会 太陽勉強会	特別研究室		
20	水	民俗探訪会	講堂		
		裏打ちの会	科学教室		
21	木	展示解説ボランティアの会	講堂		
22	金	古文書講読会	講堂		
		星まつりを調べる会	特別研究室		
23	土	地球科学入門講座	講堂	☆	
		お囃子研究会	講堂		
24	日	◎ 郷土史入門講座	講堂	☆	プラネタリウム一般投影「星はすばる」(2/6/21)
		天体観望会 勉強会・文化祭準備	講堂		
25	月	休館日			
26	火				
27	水				
28	木	平塚石仏を調べる会	講堂		
29	金				
30	土	天体観望会 定例会	講堂	☆	
	◎	宇宙開発連続講座 第1回	プラネタリウム室		
31	日	天体観望会 流星分科会	科学教室	☆	

☆：プラネタリウム投影日 ○：申込制行事 ◎：参加自由 無印：年間会員制

【自由参加の行事】

◎スターウォッチング入門講座・冬

内容：星空をちょっと眺めたいなという人や、これから星を見始めたい人のための入門講座です。今年度最後の回は、天体写真の簡単な撮り方や望遠鏡の選び方・使い方をお話します。

日時：1月10日（日）午後3時30分～午後5時

場所：講堂 定員：30人（先着順）

◎星を見る会「冬の星を見よう」

内容：一年でもっともきらびやかな冬の星たちを望遠鏡で観察します。

日時：1月15日（金）午後7時～午後8時30分 場所：科学教室・屋上

◎ろばたばなし

内容：民家のいりろばたで昔話を語ります。 場所：相模の家

日時：1月17日（日）(1)午後1時20分 (2)午後3時

◎郷土史入門講座「中原御殿と近世平塚の幕開け」

内 容：中原御殿について入門的な郷土史を学びます。

日 時：1月24日（日）午前10時30分～午前12時

場所：講堂 定員：50人（先着順）

1	月	休館日			
2	火				
3	水				
4	木	古代生活実験室	科学教室		
		展示解説ボランティアの会	講堂		
5	金	聞き書きの会	特別研究室		
		古文書講読会	講堂		
6	土	◎ 館長の星空解説	プラネタリウム室	☆	第17回 博物館文化祭「(2/6/21)」
	◎	宇宙開発連続講座 第2回	講堂	☆	
7	日	平塚の古代を学ぶ会	科学教室		
		天体観望会	科学教室	☆	
	◎	会員によるプラネタリウム投影	プラネタリウム室	☆	
	◎	未来を担う子ども達と平塚空襲を考える	講堂		
8	月	休館日			
9	火	地質調査会	工作室		
10	水				
11	木	平塚石仏の会	市内		
12	金	お囃子研究会	講堂		寄贈品コーナー「離人形」(2/3/3/3)
		古文書講読会	講堂		
13	土	東国史跡踏査団	講堂	☆	
	◎	博物館文化祭 活動報告会	講堂	☆	
14	日	◎ 古代土笛を体験しよう	科学教室	☆	
	◎	太陽黒点の観察	博物館 入口前		
15	月	休館日			
16	火	天体観望会 太陽勉強会	特別研究室		
17	水	民俗探訪会	講堂		
		裏打ちの会	科学教室		
18	木	展示解説ボランティアの会	講堂		プラネタリウム一般投影「星はすばる」(2/6/21)
19	金	古文書講読会	講堂		
		星まつりを調べる会	科学教室		
		相模川の生い立ちを探る会	野外：南足柄 雨天：科学教室		
20	土	お囃子研究会	講堂	☆	
	◎	みんなで叩くお囃子体験会	講堂・相模の家		
	◎	宇宙開発連続講座 第3回	プラネタリウム室		
21	日	◎ 天体観望会 勉強会	科学教室	☆	
	◎	郷土史入門講座	講堂	☆	
	◎	ろばたばなし	相模の家		
	◎	星空と音楽のタベ	プラネタリウム室		
22	月	休館日			情報コーナー「綿花を知ろう～種子と茎を活用したものづくり」(2/27～3/19)
23	火				
24	水				
25	木	石仏を調べる会	講堂		
26	金	古文書講読会	講堂		
	○	アクアマリン 星空コンサート	プラネタリウム室		
		地域史研究ゼミ	特別研究室		
27	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特別研究室	☆	
	◎	くらしの中の天文講座 暦とうるす年の話	プラネタリウム室		
28	日	◎ 宇宙開発連続講座 第4回	プラネタリウム室	☆	
29	月	休館日			

情報コーナー「綿花を知ろう～種子と茎を活用したものづくり」(2/27～3/19)

【プラネタリウム】 定員：70人 観覧料：200円（18歳未満・65歳以上無料）

○観覧券をお求めのうえ、投影開始10分前までに3階にお越しください。

○全席自由席です。 ○投影開始後のご入場・途中退出はできません。

☆プラネタリウム一般向け番組「2016年の天文現象」

投影日：1月31日（日）までの土・日曜日、冬休み中の水・木曜日

☆プラネタリウム幼児向け投影「だれがおひさまかくしたの？」（未就学児向け）

投影日：1月9日（土）、1月23日（土）午前11時

☆星空と音楽のタベ 投影日：1月17日（日） 時間：午後4時

内 容：ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」など、クラシック音楽を聞きながら美しい星空を鑑賞します。

1月の休館日：1～4日、12日、18日、25日

※博物館からのお願い

駐車場が大変混雑しています。極力、公共交通機関でご来館ください。